

# にこにこ新聞 6月号 (書道・外国人の英会話・笑い文字)



新学期になり2か月が経ちました。少しは落ち着きましたか？

新しい環境で一生懸命がんばってきた子どもたち。生活のリズムが整ってきた

今、実は子どもの「やってみたい!」「もっと外の世界を覗いてみたい!」と

いう冒険心が一番高まる時期でもあります。

今年の夏合宿、大型バスをチャーターし、すでに【50名】の申し込みをいただいています!

本当にありがとうございます。

満員まで【あと5名ほど】となりましたが、最高のメンバーで出発したいと思い、私たちがこの合宿に込めた「本当の想い」をお届けさせてください。

---

今年の合宿テーマ

『指示待ちの毎日にさようなら!自分で考え、動くための「やる気スイッチ」を入れよう!』

---

実は、日々の学習の中で、私にはずっと強い危機感がありました。

「次は何をしたらいい?」「どうしたらいいかわからない」と、指示をされない動けない子どもたちが、最近とても増えているように感じるのです。たくさんの規制やルールに囲まれ、失敗を恐れて縮こまっている姿は、子どもたちが本来持っているはずの「伸び伸びとした子どもらしさ」が少しずつ失われているようでもあり、本当に胸が痛みます。

「人から言われる前に、自分から進んで動ける子になってほしい」

「まわりの意見に流されず、自分の頭でしっかり考えて行動できる『自分軸』を持ってほしい」

そんな強い想いが、私たちの合宿の原点です。

あるお母さんの体験談:「初めてのキャンプ」で見せた子どものスイッチ

ここで、以前キャンプに参加されたあるご家庭の素敵なエピソードをご紹介します。

それまで、子どもだけで実家に泊まることすらしたことがなかったそうです。

「だから、私の方が心配で、不安だったんです。でも子ども達は、ちょっと緊張しながら、自分より大きいんじゃないかと思うようなリュックを背負って合宿へ行きました。

長男は、初日は不安そうにしていたようです。でも帰ってきた時には、どこか自信満々の顔をしていました。

そして一番驚いたのが、次男でした。それまで、末っ子気質でなんでもやってもらうのが上手な子だったのに、帰ってきたら、『ぼくがパン焼いてあげる!』と言って、本当に焼いてくれたんです。子どものスイッチって、こういう時に入るんだなと、本当に驚きました」

ずっと親が先回りしていた子が、自分で荷物を持ち、自分で動き、自分で人と関わる。

学校という「同い年の集団」を離れ、大自然や異年齢の仲間の中で過ごすからこそ、子どもは急にたくましい「お兄さん・お姉さん」の顔に変わる瞬間があります。

人とのコミュニケーションが苦手なお子さんや、少し消極的なおさんは、最初は特に「行きたくない!」と参加を嫌がるかもしれません。保護者の方も「嫌がる我が子を無理に行かせるのも……」と迷われると思います。

でも、そんなお子さんにこそ、自分の殻を破る大チャンスにしてほしいのです。

私たちの合宿には、「失敗」も「恥ずかしいこと」もありません。

うまく喋れなくても、失敗してご飯が焦げちゃっても大丈夫。それすらも全部「面白いね！次どうする？」と受け止める温かい仲間と環境がここにはあります。だからこそ、子どもたちは安心して自分の殻を脱ぎ捨てることができるのです。

忙しい子どもたちへ、そして毎日がんばる親御さんへ

今の子どもたちは、毎日習い事や学校、宿題に行き着く暇もなく、本当に忙しく過ごしています。だからこそ、この1泊2日の間だけは、窮屈な日常から心も体も100%解放させてやりたいのです。きっと保護者の皆様も、毎日仕事に家事に忙しく、「子どもにいろいろな体験をさせてあげたいけれど、なかなか時間が作れない……」と心苦しく思われることがあるのではないのでしょうか。

実は、かつての私もそうでした。

当時は日々の忙しさに追われ、我が子に十分な経験をさせてあげられなかったことを、今でも後悔しているんです。

だからこそ、あの頃の私と同じように奮闘しているお父さん、お母さんの力に少しでもなりたい。「手が貸せたらいいな」と思っています。忙しい親御さんに代わって、子どもたちに一生心に残る体験をさせてあげる。それが今の私達の役目だと思っています。

そしてもう一つ。

子どもたちが合宿に行っている1泊2日の間は、いつも頑張っているお母さん・お父さんも、ぜひのんびりと自分の時間を作ってリフレッシュしてください。

たまには子育てを一休みして、お気に入りのカフェに行ったり、ゆっくりお湯に浸かったり……。親御さんの笑顔が、子どもたちにとって一番のエネルギーですから、この時間はぜひご自身のために使ってくださいね。

「言葉にできない経験」が、人生の土台になる

1泊2日という限られた時間ですが、大自然の中には、教科書の文字を読むだけでは学べない「命の大切さ」や「感謝の気持ち」を学ぶ瞬間がたくさん詰まっています。令和6年「命のまつり」、令和7年「もうすぐ食べられるぼく」を学びの時間としてみんなで考え発表しました。

これらは、帰ってきた瞬間に目に見える変化としてすぐ現れるものではないかもしれませんが。子どもたち自身も、帰宅後はただ「楽しかった！」としか言葉にできないかもしれません。

それでも、仲間と協力して過ごした濃密な2日間の記憶は、言葉を超えて、これからの長い人生を支える絶対的な「心の土台（生きる力）」として、胸の奥底にずっと残っていくと信じています。

親が思っている以上に、子どもは自分の力で乗り越える力を持っています。

「まだ1人じゃ無理かな」と守るだけでなく、「あなたなら大丈夫！」と、ぜひ子どもさんの背中を押してあげてください。

その一歩が、子どもたちの「やる気スイッチ」を押し、未来と可能性を大きく広げるキッカケになります。

**【夏のイベント合宿・最終受付】**

**バス座席の関係上、【あと5席】**で完全に受付終了となります。

「うちの子、1泊2日でちゃんとやっていけるかしら…」

「お友達とうまく馴染めるかしら…」

と迷われている親御様も、席が完全に埋まってしまう前に、まずは一度お気軽にご相談くださいね

お子さんにとっても、親御さんにとっても、最高に有意義な夏にしましょう！お待ちしております！

朝忙しくてなかなかお弁当を作ることができない方は、バスを乗る前にコンビニによりますので、申し出てください。お弁当はごちそうを作る必要ありません。負担にならないよう、手軽な簡単なものを食べれる量お願いします。容器は捨てるようなものが荷物にならないかもです

## 書道教室からのお知らせ

先日、「広島書道展」に出品した生徒のみなさんに、作品と賞状を持ち帰ってもらいました。

どの子も本当に一生懸命、心を込めて頑張って書いた大切な作品です。

ぜひお家でもたくさん褒めてあげてくださいね。

今年は惜しくも県立美術館への展示に届かなかった生徒たちにも、何か形にしてあげたくて……

私から「特製の額」を作ってプレゼントしました！

赤い紙に龍が舞い上がる素敵な台紙を見つけたので、思わず張り切って作っちゃいました。

それを見た他の生徒たちが「いいなあ～！」と言うので、「そりゃあ、先生の愛がたっぷり入っとるけえね！」\*と伝えると、「そうじゃね！」と嬉しそうに笑っていました😊

大事なものは、賞に入る・入らないではなく、「まずはやってみる、挑戦してみる」ということ。その経験こそが、子どもたちを大きく成長させてくれます。今年もみんなで一緒に頑張りましょうね！

### これからの練習についての大切なお願い

書道展に向けて、ひとつの文字を2ヶ月間じっくり練習してきました。そのため、「その文字」に関しては見違えるほど上手になっています！

しかし、他の文字も同じように書けるかという点、まだそうではありません。いろいろな文字が上手になるためには、これからさらに「たくさんの種類の文字」を経験していくことが必要です。

基礎をしっかり固めていくためにも、毛筆のお稽古の日には毛筆の道具を持ってくるようにしてくださいね。

### 【6月のお稽古スケジュール】

- 6月5日(金) → お休みとさせていただきます。
- 6月10日(水) → お休みとさせていただきます。

教室は通常「1ヶ月に3回」です！集中して、たくさん書いて一緒に上手になりましょう～～～！

中・高生は自分で計画を立てて道具をもってきてくださいね。今月もどうぞよろしく願いいたします。

## 毛筆を持ってくる学年

6月3日(水) 12日(金)	17日(水) 19日(金)	24日(水) 26日(金)	5日 10日
2年6年	4年5年	1年3年	休み

全国書画展の字を少し練習したいと思います。

よって1.2年生はこちらで書道道具をお貸ししますので  
とりあえずは硬筆の道具を持って来て下さい。

## 外国人講師の英会話教室



どんなことでも継続は力なりと言いますが  
英会話はまず英語と日本語とを聞き分けること  
から始まります。日本語になっている英語も発音や音にしない単語があります。

実は、普段私たちが使っている日本語のカタカナ英語と、本物の英語の発音には大きな違いがあります。例えば……マクドナルド & アップルパイ

- 「マクドナルド」⇒ 英語では「メクダーナァズ」のように真ん中にアクセントがきます
- 「アップル」⇒ 英語では「アポォ」のように聞こえます  
(※「バナナ」や「メロン」は、比較的日本語に近い感覚で通じやすいですね。でも「アップル」はちよつと違います🍎)

子どもたちは、ネイティブの音を聞いてすぐは、本当にきれいな発音(アポォ! など)ができるのです! ただ、普段の生活で「アップルジュース」と言い慣れているため、ついそちらが出てしまうこともあります。

「聞いたことがある言葉」だから話せる 英会話を始めたからといって、すぐにペラペラ話せるわけではありません。でも、日本語と同じように「たくさんの言葉を聞くこと」で、少しずつ話せるようになっていきます。知らない言葉は話せません。だからこそ、まずは「とにかく聞くこと」、そして「その環境に身を置くこと」が何より大切です。

子どもたちは、大人の真似をするのがとっても上手です。物怖じせず、「恥ずかしい」という気持ちはまだないこの時期こそが、語学を吸収する『黄金期』

外国人講師の生の英語に触れながら、この黄金期を最大限に活かして、楽しく「聞く力・話す力」を育てていきましょう!

6月は(火)が5回ありますが5回レッスンをいたします。

## 笑い文字

いつでもお声かけください。

ありがとうをかわゆく書きましょう